



YMCA

2006年度大阪YMCA年間聖句
「愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。」
(ヨハネの手紙 4章7節)

大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

月刊 The YMCA 付録
編集・発行 / 日本YMCA同盟 東京都新宿区本郷町7番地
大阪青年 発行：錦織一郎 編集：大阪YMCA広報室
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297
URL: http://www.osakaymca.or.jp/
(年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

大阪青年 2006 Jul. 7 Aug. 8 No. 586



YMCAキャンプ 夏

「不便さ、煩わしさを楽しむ」

1920年の夏に六甲山で誕生したYMCAキャンプは、日本で最初の教育的な目的を持つて行われたキャンプでした。以来、YMCAは精神、知性、身体、社会性のバランスのとれた人間像をめざし、多くの青少年にキャンププログラムを提供してきました。社会や家族の変化は、キャンプに参加する子どもたちの行動に反映されます。

現代の社会、そして家族や子どもの変化の背景は次のように語られています。「便利さを追い求め、1920年の夏に六甲山で誕生したYMCAキャンプは、日本で最初の教育的な目的を持つて行われたキャンプでした。以来、YMCAは精神、知性、身体、社会性のバランスのとれた人間像をめざし、多くの青少年にキャンププログラムを提供してきました。社会や家族の変化は、キャンプに参加する子どもたちの行動に反映されます。

煩わしさを除き去り、物質的に豊かになった社会。日常生活の中で忍耐、工夫、失敗と努力、人との協力の知恵なども共に取り除き、大人も子どもも煩わしいことを避け、常に他者に助けを求める社会となりました。そして失敗ややり直しは許されず、困難や挫折を積み上げる経験が少ない未成熟な大人や子どもを生み出してきたのではないのでしょうか。人が成熟し社会の一員として生きていくには、手間と煩わしさを楽しむゆとり、五感体験を積み重ね、総合的な認知力を高めること、そして他者の様々な関わりや感情の共有体験を積み重ねることが必要です。」

子どもたちの変化はその言動に顕著に表れています。キャンプ中に、「お母さんに言ってもらわうわ」と母親に連絡をしようとする子、「そんなこと意味ないやん!」という一言でやりたくないことを避けようとする子...。このような状況に出会う時、子どもたちと共にキャンプを創る大人として、何ができるのか、どう関わるのかいつも考えさせられます。ボランティアリーダーと共に、子どもたちに今の「気持ち」をしつかりと伝える、「気持ち」のキャッチボールをすることが、思いやりや、人と

- YMCA キャンプの目的
1. 自然生活を楽しみ、自然に適応する能力を身につける
 2. 良い習慣を育て実践する
 3. 健康のための知識を得て、自分の身体を守る方法を知る
 4. 生活を豊かにする技術を学び、創造力を育む
 5. 良き友人を作る方法を学び、互いの存在と生命を尊重する心を育む
 6. 民主的なグループ経験から、社会に関わる責任感を育む
 7. 神の恵みを知り、感謝の気持ちを持つ
- (YMCA キャンプスタンダードより)

南YMCAウエルネスセンター所長 橋本 啓

地の塩

▼「忙しい毎日、バタバタと毎日が過ぎる。一つ仕事が終わればまた次の仕事が始まっている。そんな生活ばかり続けていると神経も磨り減り、イライラしてくる。周りにもツンケンし、攻撃的になってくる。ちょっとしたことに腹が立つ。身体もしんどくなってくる。身体が熱っぽい。肩が凝り身体中がギシギシしている」

▼今日は積もり積もっている仕事を少し横に置いて、庭に出てみた。太陽の下、すがすがしいそよ風が吹き、見上げると木々の葉は何ともいえない美しい新緑であった。いつの間にか枝が折れんばかりにバラが花を付けている。アジサイも良く見ると小さな蕾が葉っぱの間から顔を出している。咲き切ったパンジーの茎を切ってみた。するとその下にペゴニアの葉がたくさん姿を現した。冬に姿を消していたペゴニアの根っこが生きていたのである▼毎日この庭を歩いている私。でも自分のことで精一杯だった私。見ても見えていなかったのだと気がつく。バラの足元に生えている草を採り、咲き終わった花を切る。生い茂って庭の花に影を作ってしまった木の枝を少し切り落としてみる。紫のラベンダーの上に落ちていた鳥の枯れ葉を一枚ずつ採っていく▼あー。何とスッキリしたことか。花の足元に風が入り込み、茎ごとたなびいている。鶯も鳴いている。小一時間の庭作業で一汗かいてきた。顔に当たる風が心地よかったです。▼いつの間にか、だるかった身体が元気を取り戻しているような気がした。自然の生命力のおこぼれにあやかったようである。(N)